

大子町ゼロカーボンシティ宣言

～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロへの挑戦～

近年、世界各地で地球温暖化が原因と考えられる異常気象による大規模な自然災害が多発しており、国内においても、猛暑や集中豪雨、大型台風などによる災害が激甚化し、気候変動が人々の生活や生態系にも大きな影響を及ぼしています。

大子町においても大型台風による集中豪雨により、浸水被害が発生するなど町民の生活や経済活動に大きな被害を受けました。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命以前より平均気温の上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力すること」が世界全体の長期目標とされています。また、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するために「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

これを受けて国は、2020年10月に「2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すこと」を宣言しています。

大子町は、茨城県の最高峰である八溝山を背景に、国名勝に指定された袋田の滝をはじめとする美しい自然景観や多くの農林水産物、特産品などを有する県内有数の観光地として発展してきました。

現在を生きる私たち一人ひとりが危機感を持ち、このかけがえのない豊かな自然環境を未来の世代に引き継いでいくため、大子町は、町民、地域、事業者と、地球温暖化がもたらす気候変動が私たちの日常を脅かす深刻なリスクであることを共有し、連携・協力して持続可能な脱炭素社会を創るため、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言します。

令和4年8月31日

大子町長

高梨哲彦